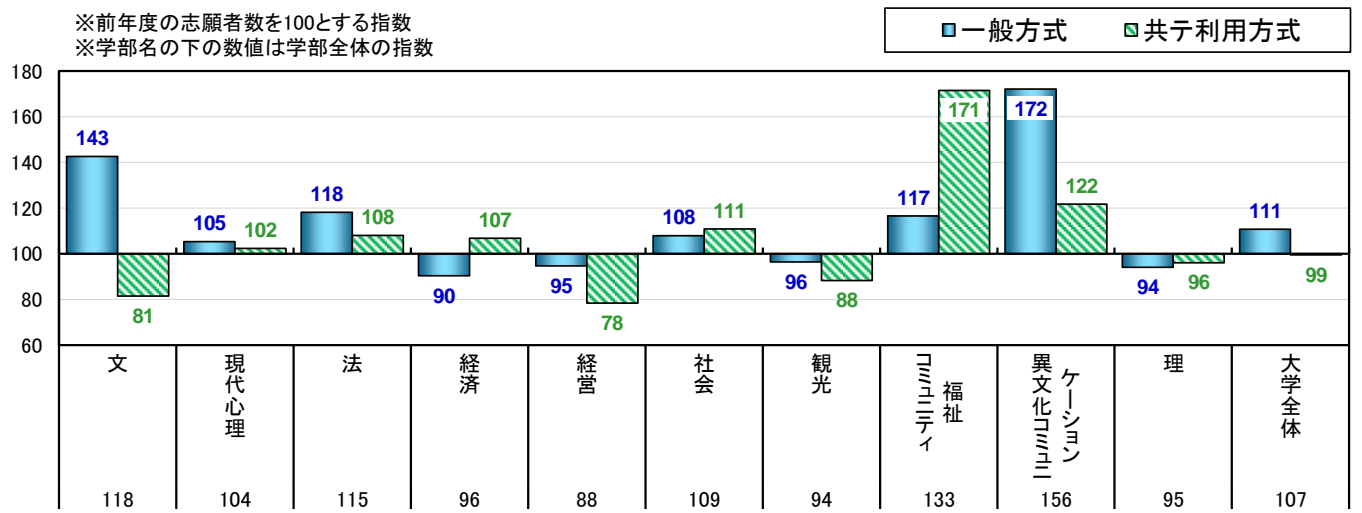


2021 年度入試状況分析【私立大】

立教大：大学全体では3年ぶりに増加、特に一般が10%以上増加 一般：+4,282人 共テ：-115人



入試変更点

出願書類：出願要件として、「主体性」「多様性」「協働性」に関する経験の提出を求める
※可否判定には使用しない

入試科目：一般の外を廃止し、共テの外か英語外部試験利用の選択制
対象試験：ケンブリッジ英検、英検、GTEC、IELTS、TEAP、TEAP CBT、TOEFL iBT

選抜方法：文以外…個別学部日程廃止、全学部日程の試験日増加
文…国+歴+外 ※歴：日 or 世
文(ドイツ文)…<共テ・6科目型>：国+外+(歴公 or 数 or 理 or 理基2)→4
理以外…<共テ併用・英語外部試験利用①全学部>：<共テ>外+<個>国+(歴 or 数) ※歴：日
<共テ併用・英語外部試験利用②全学部>：<共テ>外+<個>国+(歴 or 数) ※歴：世
<共テ併用・英語外部試験利用③全学部>：<共テ>外+<個>国+歴公 ※歴公：日 or 世 or 政経
<共テ併用・英語外部試験利用④全学部>：<共テ>外+<個>国+歴 ※歴：日 or 世 or 地
<共テ併用・英語外部試験利用⑤全学部>：<共テ>外+<個>国+歴 ※歴：日 or 世
理…<共テ併用・英語外部試験利用①全学部>：<共テ>外+<個>数+理
<共テ併用・英語外部試験利用②全学部>：<共テ>外+<個>数+理

募集人員：文(ドイツ文)<共テ>…7人→9人 文(英米文)<共テ>…32人→27人
経営(経営)<共テ>…20人→25人 経営(国際経営)<共テ>…15人→20人
理(数学)<共テ>…6人→11人 理(物理)<共テ>…13人→14人
理(生命理)<共テ>…10人→14人

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数、なお共通テスト利用方式はセンター試験利用方式との比較

大学全体では、4,167人(107)のやや増加で3年ぶりに増加。方式別では、一般方式(111)は全学部日程の試験日増加の影響で増加。共通テスト利用方式(99)は微減だが3年連続減少。学部別では、経営(88)は減少、観光(94)、理(95)、経済(96)はやや減少、一方で異文化コミュニケーション(156)、コミュニティ福祉(133)、文(118)、法(115)は大幅増加、社会(109)は増加、現代文化(104)はやや増加で10学部中6学部が増加。

<一般方式>

- 文(143)は、大幅増加で3年ぶりの増加。学科・専修別では、全て増加で(教育)(164)、(文/英米文学)(159)、(文/日本文学)(155)、(文/ドイツ文学)(140)はいずれも大幅増加で3年ぶりに増加、(文/文芸・思想)(132)は2年ぶりに大幅増加。
- 現代心理(105)は、前年度6年ぶりに減少した反動は小さくやや増加に留まった。学科別では、(映像身体)(116)は前年度減少の反動で大幅増加、(心理)(95)は2年連続減少と対照的。
- 法(118)は、前年度減少の反動で大幅増加。学科別では、(法)(128)は大幅増加で3年ぶりに増加、(国際ビジネス法)(107)は前年度大幅減少の反動は小さくやや増加に留まった。(政治)(101)は前年度まで2年連続の大幅増加だったが、反動は全く微増。
- 経済(90)は、減少で2年連続減少。学科別では、(経済政策)(75)は大幅減少で3年ぶりに減少、(会計ファイナンス)(89)は減少で2年連続減少。(経済)(100)は微減だが、4年連続減少。
- 経営(95)は、やや減少で3年連続減少。学科別では、(経営)(92)は減少で3年連続減少。一方で、(国際経営)(102)は微増だが2年連続増加と対照的。
- コミュニティ福祉(117)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。学科別では、(スポーツウェルネス)(90)は減少で3年連続減少、(福祉)(97)もやや減少だが3年連続減少、一方で、(コミュニティ政策)(158)は4年連続減少の反動で大幅増加。
- 異文化コミュニケーション(172)は、前年度まで7年連続減少の反動で激増。
- 理(94)は、前年度増加の反動で減少。学科別では、(物理)(103)はやや増加だが、残りの3学科はいずれも減少。

<共通テスト利用方式>

- 文(81)は、大幅減少。学科・専修別では、(文/フランス文学)(37)が前年度2倍以上の激増の反動で激減、(キリスト教)(44)は前年度激増の反動で大幅減少、(文/日本文学)(66)は大幅減少で3年連続減少、(文/ドイツ文学)(70)は大幅増加の反動で大幅減少、(史学)(74)は大幅減少で2年連続減少、(教育)(78)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。一方で、

2021 年度入試状況分析【私立大】

- (文／英米文学) (133)は2年連続大幅減少の反動で大幅増加。
- 現代心理 (102)は、前年度大幅減少の反動は小さく前年度並。学科別では、(心理) (111)は前年度大幅減少の反動で増加、一方で、(映像身体) (95)は前年度増加の反動でやや減少と対照的。
 - 法 (108)は、前年度大幅減少の反動で増加。学科別では、(政治) (129)は前年度半減以下の大幅減少の反動で大幅増加。法 (120)も前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で(国際ビジネス法) (54)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
 - 経済 (107)は、前年度大幅減少の反動は小さくやや増加に留まった。学科別では、(会計ファイナンス) (89)は前年度の激減に続いての減少で2年連続減少。一方で、(経済政策) (143)は前年度半減近い減少の反動で大幅増加。(経済) (105)はやや増加で2年連続増加。
 - 経営 (78)は、前年度増加の反動で大幅減少。学科別では、(国際経営) (51)は前年度大幅増加の反動で半減近い大幅減少。経営 (99)は微減だが、3年連続減少。
 - 社会 (111)は、2年連続減少の反動で増加。学科別では、(メディア社会) (93)は前年度大幅増加の反動でやや減少、一方で、(現代文化) (131)は大幅増加、(社会) (112)は増加で、いずれも前年度大幅減少の反動。
 - 観光 (88)は、コロナ禍の影響も受けて、減少で3年連続減少。学科別では、(観光) (117)は前年度ほぼ半減の反動で大幅増加、一方で、(交流文化) (62)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
 - コミュニティ福祉 (171)は、前年度激減の反動で激増。3学科全てが増加で、(福祉) (220)、(コミュニティ政策) (201)は2倍以上の激増。
 - 異文化コミュニケーション (122)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。
 - 理 (96)は、3年連続増加の反動で減少。学科別では、(生命理) (126)は大幅増加、(数学) (107)はやや増加。一方で、(化学) (79)は大幅減少、(物理) (88)は減少と増減が別れた。いずれも前年度の反動による増減。